

# 令和5年度における 神奈川県内の水質事故発生状況

令和6年7月 神奈川県環境農政局環境部環境課

## 【目次】

	頁
<b>1 水質事故発生件数</b>	
(1) 経年変化 .....	2
(2) 事故の原因 .....	2
<b>2 水系別水質事故発生件数 .....</b>	<b>4</b>
<b>3 月別水質事故発生件数 .....</b>	<b>6</b>
<b>4 水質事故事例</b>	
(1) 魚死亡事例 .....	8
(2) 油浮遊事例 .....	9
(3) その他事例 .....	11

# 1 水質事故発生件数

県では、県内で発生した水質事故を集計し、県民の皆様に公表するとともに、発生水域や原因等を考察し、水質事故の未然防止に取り組んでいます。

令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）に神奈川県内で発生した水質事故は156件でした（令和4年度は191件）。このうち、事故の原因が判明したものは61件で、全体の39%に留まっています（令和4年度は37%）。

## (1) 経年変化

県内の水質事故発生件数の経年変化を、図1に示します。

年度により変動はありますが、水質事故の件数は減少傾向にあります。

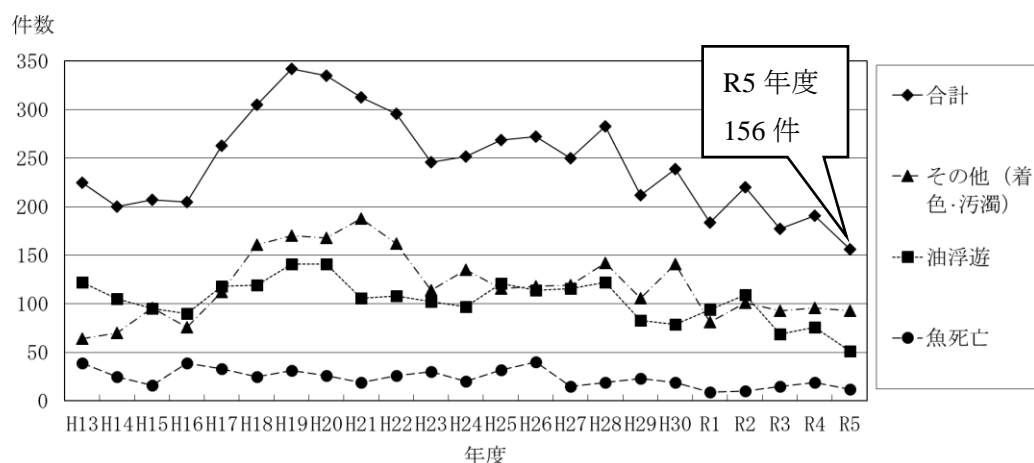


図1 水質事故発生件数の経年変化

## (2) 事故の原因

原因別水質事故発生件数及び割合を、それぞれ表1及び図2に示します。

水質事故の原因別の内訳は、工事によるもの13件(8.3%)、工場など事業所によるもの38件(24.4%)、不法投棄によるもの2件(1.3%)、交通事故によるもの5件(3.2%)、一般家庭及びその他のものが原因であるもの3件(1.9%)でした。

表1 原因別水質事故発生件数

原因	魚死亡	油浮遊	その他	合計
工事	0	0	13	13
工場など事業所	1	11	26	38
不法投棄	0	1	1	2
交通事故	0	5	0	5
自然現象	0	0	0	0
家庭	0	0	1	1
その他	0	2	0	2
原因判明分・小計	1	19	41	61
原因不明	11	32	52	95
合計	12	51	93	156

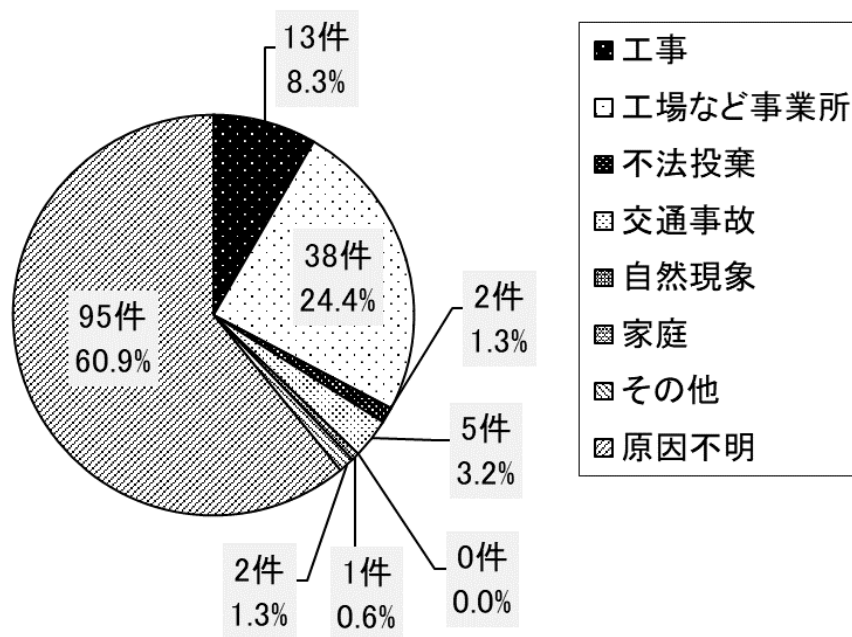


図2 原因別水質事故発生件数の割合

## 2 水系別水質事故発生件数

令和5年度の水系別発生件数は、鶴見川水系が24件と最も多く、次いで境川水系が23件、相模川水系が15件でした。

事故区分別では、着色・発泡などの「その他」に分類される水質事故が93件と過半数を占めており、以下「油浮遊」が51件、「魚死亡」が12件でした。

水質事故の水系別水質事故発生件数を表2に、主な水系の水質事故発生件数及び割合をそれぞれ図3及び図4に示します。

表2 水系別水質事故発生件数

	魚死亡		油浮遊		その他(着色・汚濁)		計	
		原因判明		原因判明		原因判明		原因判明
多摩川	0	0	1	1	12	6	13	7
鶴見川	4	1	5	1	15	5	24	7
帷子川	0	0	1	0	7	0	8	0
大岡川	1	0	1	0	0	0	2	0
宮川	0	0	0	0	0	0	0	0
侍従川	0	0	0	0	0	0	0	0
鷹取川	0	0	0	0	0	0	0	0
平作川	0	0	0	0	2	1	2	1
松越川	0	0	1	0	0	0	1	0
森戸川(葉山)	0	0	0	0	2	2	2	2
下山川	0	0	0	0	1	0	1	0
田越川	0	0	0	0	2	0	2	0
神戸川	0	0	0	0	1	0	1	0
滑川	0	0	0	0	1	0	1	0
境川	1	0	7	0	15	4	23	4
引地川	1	0	4	1	2	0	7	1
相模川	1	0	10	5	4	1	15	6
金目川	1	0	9	5	1	1	11	6
葛川	0	0	0	0	1	1	1	1
中村川	0	0	0	0	0	0	0	0
森戸川(小田原)	1	0	0	0	1	0	2	0
山王川	0	0	1	0	0	0	1	0
酒匂川	0	0	2	2	2	2	4	4
早川	0	0	0	0	3	3	3	3
その他の河川等	1	0	4	1	6	3	11	4
湖	0	0	1	1	0	0	1	1
湾(運河含む)	1	0	4	2	15	12	20	14
合計	12	1	51	19	93	41	156	61
原因判明率		8.3%		37.3%		44.1%		39.1%
前年度 計	19	3	76	22	96	45	191	70
原因判明率		15.8%		28.9%		46.9%		36.6%

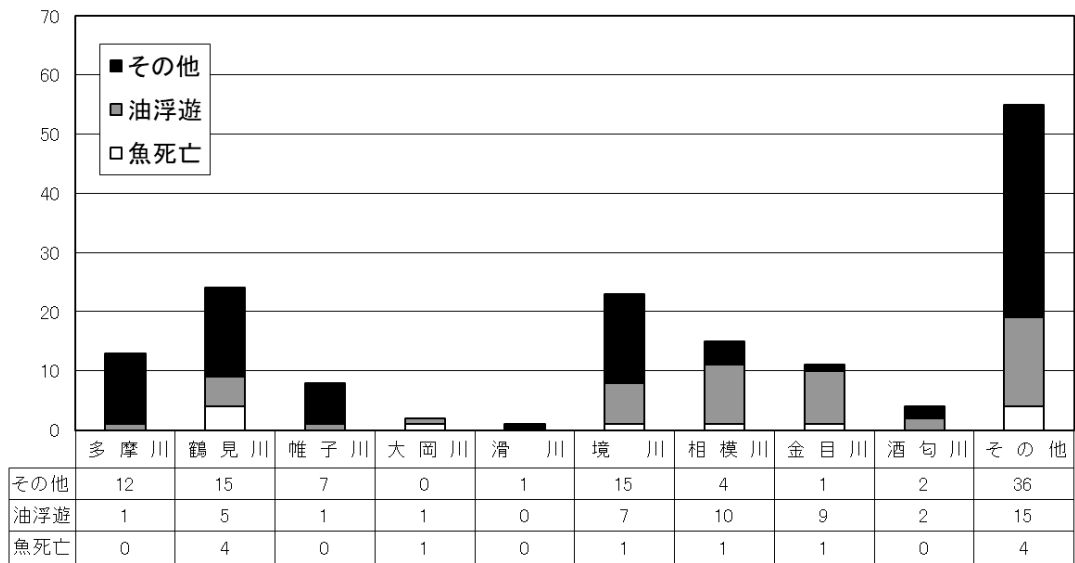


図3 水系別水質事故発生件数

※「その他」にはグラフに記載のある河川以外の河川、湖及び湾が含まれます。

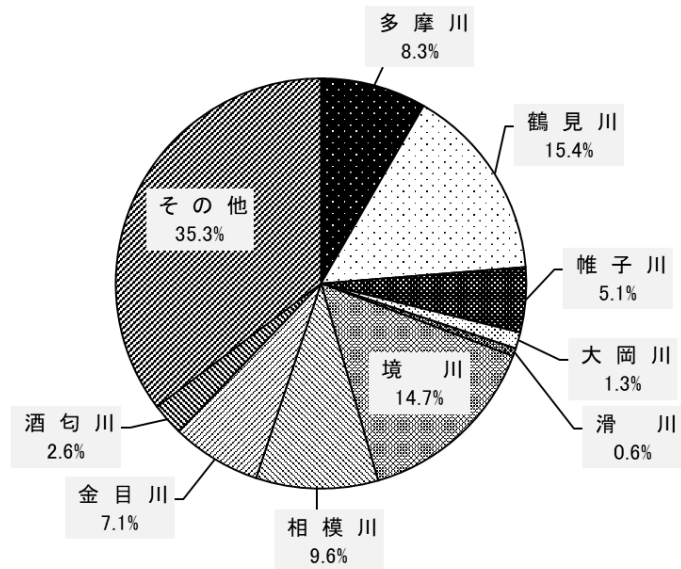


図4 水系別水質事故発生件数の割合

※「その他」にはグラフに記載のある河川以外の河川、湖及び湾が含まれます。

### 3 月別水質事故発生件数

令和5年度の月別発生件数を見ると、6月が26件で最も多く、1月が最も少なく8件でした。

魚死亡の水質事故は8月に最も多く、油浮遊は6月、その他の水質事故は6月に最も件数が多くなりました。

月別水質事故発生件数（地域別）及び月別水質事故発生件数（県内合計）をそれぞれ表3及び図5に示します。

表3 月別水質事故発生件数(地域別)

	県域				横浜市域				川崎市域				相模原市域				横須賀市域				県全域 種類別月計			月別 総計
	魚死亡	油浮遊	その他	小計	魚死亡	油浮遊	その他	小計	魚死亡	油浮遊	その他	小計	魚死亡	油浮遊	その他	小計	魚死亡	油浮遊	その他	小計	魚死亡	油浮遊	その他	
4月	0	3	3	6	0	0	3	3	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4	8	12
5月	0	3	2	5	0	1	0	1	0	1	8	9	0	0	0	0	0	1	1	2	0	6	11	17
6月	0	5	0	5	1	2	7	10	0	0	4	4	0	1	2	3	0	2	2	4	1	10	15	26
7月	1	1	1	3	1	0	4	5	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	3	1	6	10
8月	2	3	4	9	2	3	3	8	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	6	8	19
9月	1	2	1	4	0	0	4	4	1	1	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	9	14
10月	0	1	3	4	0	1	0	1	0	0	3	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	6	9
11月	1	2	1	4	0	2	2	4	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4	6	11
12月	0	3	2	5	0	1	2	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	9
1月	0	1	2	3	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	1	2	0	0	1	1	0	2	6	8
2月	0	2	2	4	0	1	0	1	0	0	2	2	0	1	1	2	0	0	0	0	0	4	5	9
3月	0	1	3	4	0	2	1	3	0	1	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	8	12
合計	5	27	24	56	4	13	27	44	2	4	32	38	1	4	4	9	0	3	6	9	12	51	93	156

※横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市及びその他県域では、それぞれ水質事故の集計方法が異なるため、合計数が異なる場合があります。

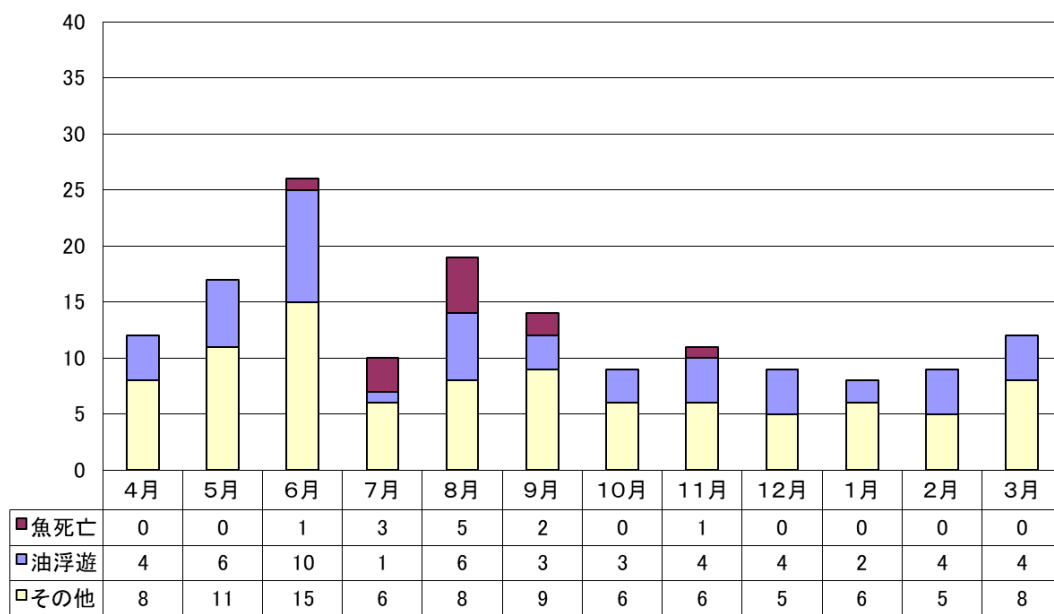


図5 月別水質事故発生件数(県内合計)

## 4 水質事故事例

令和5年度に神奈川県内(横浜市、川崎市、相模原市及び横須賀市を除く)で発生した水質事故の発生状況(事故の概要等)について、四半期ごとにまとめています。なお、横浜市、川崎市、相模原市及び横須賀市で発生した水質事故については、各市のホームページをご覧ください。

### (1) 魚死亡事故事例

魚死亡事故事例について、表4に示します。

表4 水質事故発生状況(魚死亡事故事例)

#### 第1四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他内容		

#### 第2四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他内容		
7	25	(森戸川)	関口川	小田原市	○			不明	関口川で5~10cm程度の魚400~500匹が死亡した。水質検査の結果では異常は見られなかった。発生源は特定できなかった。
8	2	(引地川)	—	藤沢市	○			不明	上流側の円行新橋から下流側の天神橋にかけて、小型のアユ(10~15cm程度)が多数、大型のアユ(20~25cm程度)約100匹の死亡を確認した。水質に異常は見られなかった。
8	12	(血洗川)	—	大磯町	○			不明	血洗川でウナギ約100匹、ドジョウ約20匹、ザリガニ、小魚数匹の死亡を確認した。水質に異常は見られなかった。
9	3	(金目川)	三沢川	大磯町	○			不明	7.8cm程度の魚200匹程度が死亡した。簡易水質検査の結果では異常は見られなかった。発生源は特定できなかった。

#### 第3四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他内容		
11	30	(相模川)	流入水路	厚木市	○			不明	水路でヘラブナ300匹強、ナマズ数匹、コイ数匹が死亡した。発生源は特定できなかった。

#### 第4四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他内容		



## (2) 油浮遊事故事例

油浮遊事故事例について、表5に示します。

表5 水質事故発生状況（油浮遊事故事例）

第1四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他		
4	10	(相模川)(乙)	目久尻川	綾瀬市		○		不明	虚空蔵橋付近で油浮遊を確認した。下流の吉野橋にオイルマットを設置した。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。
4	18	(金目川)(乙)	農業用水路	平塚市		○		不明	農業用水路で油浮遊を確認した。水路の両端にオイルマットを設置した。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。
4	24	酒匂川(甲)	金瀬川	小田原市		○		事業所	水路で油浮遊を確認した。遡上調査を行ったところ、事業所において軽油が混合した廃液を流出させたことが判明した。酒匂川との合流地点前にオイルフェンスを設置し、事業所前水路にオイルマットを設置した。事業者に対し清掃、油の回収及び事故報告書の提出を指導した。神奈川県内広域水道企業団で取水減量及び活性炭投入措置を、小田原市上下水道局で活性炭投入措置を行った。
5	8	保全(甲・芦ノ湖沼)水質	一	箱根町		○		事業所	船が転覆し、ガソリン15Lが流出した。原因者がオイルマットで油を回収した。
5	24	(引地川)(乙)	蓼川	綾瀬市		○		厚木基地	基地内で油が漏れ、綾瀬市内の排水溝を通じて蓼川へ流出した。綾瀬市及び藤沢市内の蓼川の複数個所にオイルマットを設置した。原因者がオイルマットを回収した。
5	29	(相模川)(甲)	荻野川	厚木市		○		事業所	農業用水取水用の油圧式可動堰に油を注入した際、機械油約1Lが河川に流出した。下流にオイルマットを複数設置した。
6	2	(相模川)(甲)	永池川	海老名市		○		工事事業所	大谷南の工事現場にて発電機から漏えいした油及び大谷の資材置き場にて資材に付着していた油がそれぞれ雨水に流され、それぞれ田んぼ及び河川に流出した。河川及び田んぼにオイルマットを設置した。
6	6	相模湾	小網代湾	三浦市		○		不明	道路側溝にて油浮遊を確認した。流出した油が少量であり、水質への影響が軽微と判断したため対策は行わなかった。原因は特定できなかった。
6	9	(相模川)(甲)	永池川	海老名市		○		不法投棄	不法投棄されたエンジンオイルらしきものが降雨により農業用水路を経由して河川に流出した。農業用水路及び河川にオイルマットを設置した。
6	12	(金目川)(乙)	歌水路流入	伊勢原市		○		事業所	事業所内の資材に付着した油が、降雨に伴い、油水分離槽の処理能力を超えて水路に流入した。原因者が水路等にオイルマットを設置するとともに、油水分離槽の清掃等を行った。
6	26	(相模川)(乙)	目久尻川	海老名市		○		交通事故	軽自動車河川に転落し、油が河川に流出した。下流にオイルマットを複数設置した。

第2四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他内容		
7	5	(相模川) (乙)	小出川 入水路	藤沢市		○		事業所敷地内の油タンクから油が500L漏れ、うち100Lが防油堤の水抜き管から流れ出し、敷地に隣接している埋設物を通じて、水路に流出した。水路への排水口及び小出川にオイルマットを設置した。原因者が油の浸透した土壌の掘削除去を行った。	
8	1	(酒匂川) (甲)	川音川	松田町		○		事業所のグリーストラップに雨が流入し、あふれた油が配管を通じて川音川に流出した。下流にオイルフェンスを設置した。事業者が油の回収及びグリーストラップの清掃を実施した。	
8	12	(引地川) (乙)	比留川	綾瀬市		○		比留川で油膜を確認した。調整池に流入する公共柵及び調整池から河川への出口にオイルマットを設置した。原因調査を行ったが、発生源を特定できなかった	
8	30	(引地川) (乙)	—	藤沢市		○		引地川の円行大橋及び石川堰付近で油浮遊を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。生物への被害は見られなかった。	
9	8	(相模川) (甲)	恩曾川	厚木市		○		新長ヶ町橋の下流50m付近で油膜を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。取水への影響はなかった。	
9	23	(金目川) (乙)	笠張川	平塚市		○		大神橋付近で油浮遊を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。	

第3四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他内容		
10	6	(山王川) (乙)	久野川	小田原市		○		子の神橋及び又渡橋で油膜を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。	
11	11	(金目川) (乙)	流入水路	伊勢原市		○		水路での油浮遊の通報があり、原因調査により、事業所での重機からの油漏れが原因と判明。水路にオイルマットを設置し、原因者が油水分離槽の清掃を行った。	
11	28	(金目川) (乙)	河内川	平塚市		○		河内川での油膜の通報があり、付近の水路で油臭が確認されたためオイルマットを設置した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。	
12	6	(引地川) (乙)	—	藤沢市		○		長後橋付近の排水口からの油流入を確認。引地川及び排水口にオイルマットを設置し、滞留していた油を回収した。	
12	21	(金目川) (乙)	—	平塚市		○		高麗大橋上流右岸の水門付近で油膜を確認。高麗大橋の上流の水門にオイルマットを設置した。	
12	28	(境川) (乙)	—	藤沢市		○		水路から農業用ポンプ場に油が流入したため、境川に流出。市がオイルマットを設置した。	

第4四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他		
1	3	(金目川)	—	平塚市		○		交通事故	観音橋の上流側右岸にて車両が転落し、車両からエンジンオイルが漏れた。オイルマットを設置し、転落車両を撤去した。
2	19	(金目川)	—	平塚市		○		交通事故	車両が側溝に落ち、ガソリン10L程度が側溝に流出したと通報があった。現場確認で河川へ流出の可能性は極めて低いことを確認した。
2	22	(相模川)	—	平塚市		○		不明	トラスコ湘南大橋下で油膜を確認した。オイルマットで油の回収を行った。
3	14	(金目川)	歌川	伊勢原市		○		交通事故	事故車両の燃料タンクから軽油が流出し、雨水管等を通して歌川へ流出したため、オイルマットで油の回収を行った。

(3) その他事故事例

その他事故事例について、表6に示します。

表6 水質事故発生状況（その他事故事例）

第1四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因	事故の概要
月	日				魚死亡	油浮遊	その他		
4	4	(酒匂川)	—	山北町			○	濁水	事業場において粉じん防止目的で行われた散水や雨水が流入する沈殿池より濁水が河川に流入した。原因者に対し、排水処理施設の適正管理を指導した。
4	13	(神戸川)	二又川	鎌倉市			○	白濁	五郎丸橋付近で白濁水を確認した。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響は認められなかった。
4	20	(森戸川)	酒匂堰	大井町			○	泡浮遊	酒匂堰で泡浮遊を確認した。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響は認められなかった。
5	6	(下山川)	—	葉山町			○	白濁	河川で白濁を確認した。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への被害は認められなかった。
5	16	(早川)	—	箱根町			○	下水	道路工事の際に下水管から下水が流出した。河川に汚濁等は見られず、生物への影響は認められなかった。

第2四半期発生状況

発生月日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因	事故の概要	
月	日				魚死亡	油浮遊	その他内容			
7	5	(乙) 田越川	—	逗子市			○	白濁	不明	東逗子橋から連沼橋の間の約100mの範囲で白濁を確認した。原因調査を行ったが、発生源を特定できなかった。生物への影響は見られなかった。
8	1	(乙) 相模川	歌川分流排水路	平塚市			○	泡浮遊	不明	歌川分流排水路で泡浮遊を確認した。原因調査を行ったが、発生源を特定できなかった。
8	22	(乙) 葛川	長谷川	大磯町			○	白濁	工事	工事にて発生した処理水が道路沿いの暗渠を通じて排水口から河川に流出した。使用資材のSDSやカタログから、有害性や環境影響について問題がないことを確認した。
8	22	(甲) 早川	—	箱根町			○	白濁	工事	建物の解体工事の際にセメントミルクが河川に流出した。原因者が可能な限りのセメントを回収した。河川に異常は見られず、白濁も見られなかった。
8	30	(乙) 引地川	—	藤沢市			○	白濁	不明	引地川の円行新橋付近で白濁を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。生物への被害、及び簡易分析の結果水質の異常は見られなかった。
9	15	(乙) 森戸川	—	葉山町			○	白濁	工事	工事に伴い生じた濁水が河川に流出した。原因者に対し、濁水の排水停止を指導した。

第3四半期発生状況

発生月日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因	事故の概要	
月	日				魚死亡	油浮遊	その他内容			
10	25	(乙) 滑川	—	鎌倉市			○	白濁	不明	海岸橋周辺で白濁を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。生物への被害は見られなかった。
10	26	(乙) 田越川	流入水路	逗子市			○	白濁	不明	水路で白濁を確認した。河川への流入口にオイルマットを設置した。生物への被害は見られなかった。
10	30	(乙) 引地川	比留川	綾瀬市			○	白濁	不明	芝原橋右岸下流の排水路付近で白濁を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。生物への被害は見られなかった。
11	2	(甲) 早川	須雲川	箱根町			○	泡浮遊	事業所	旅館が浴場から誤ってシャンプーの原液を流し、河川で泡浮遊が確認された。生物への被害は見られなかった。
12	6	(甲) 酒匂川	狩川	南足柄市			○	白濁	工事	住宅工事において使用していたペンキが水路に流出。原因者がペンキを回収した。
12	16	(乙) 森戸川	松久保川	葉山町			○	臭気白濁	事業所	水路での白濁及び悪臭の通報があり、原因調査により、事業所からの排水が原因と判明。原因者に対し対策を指導した。

第4四半期発生状況

発生日		水系	支川等	市町村	事故区分			原因	事故の概要	
月	日				魚死亡	油浮遊	その他			
							内容			
1	18	(乙)相模川	目久尻川	綾瀬市			○	白濁	不明	虚空蔵橋にて白濁を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。生物への被害はなかった。
1	18	(乙)柏尾川	小袋谷川	鎌倉市			○	白濁	不明	道路側溝から河川へ白濁の流入を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。生物への被害はなかった。
2	7	(乙)金目川	新川	平塚市			○	白濁	事業所	雨水流入管において白濁を確認した。原因者へ雨水配管の清掃を依頼し、再発防止策を検討するよう指導した。
2	21	相模湾	—	湯河原町			○	白濁・発泡	不明	水路にて白濁・発泡を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。生物への被害はなかった。
3	7	相模湾	—	湯河原町			○	白濁	不明	水路にて白濁を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。
3	8	相模湾	—	湯河原町			○	白濁	不明	水路にて白濁を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。
3	27	(乙)相模川	音無川	鎌倉市			○	白濁	不明	川底に白濁を確認した。原因調査を行ったが発生源を特定できなかった。生物への被害はなかった。